

概要案

AI活用の基礎と、運用・保守を担う人材の育成手順を学ぶ実践講座

実際の社員教育で使えるAI人材育成教材付き

講座の位置づけ：本プログラムは、**AIリテラシーの習得を起点に、自社でAI人材を育てていく方法を学び、実践していただく** プログラムです。まず必須講座「AIリテラシー習得編」で、**AI導入にあたって整えるべき環境（必要な人員・体制を含む）**を理解。そのうえで目的に応じた選択講座を選び、**動画教材での自習と対面講座**を通じて、「**教材を活用して自ら学び進める手法**」を体得します。本プログラムが目指すのは、教材の内容を覚えることではなく、**自学のやり方を身につけ、社内で継続的に学び続けられるようになること**。対面講座と実践動画教材（+PDF）を組み合わせた、経営層からエンジニアまで対応する **二層構成** です。

1. プログラムの概要

本プログラムは、AIの基本リテラシーから、機械学習・ディープラーニング・LLM・AIエージェント・マルチエージェントまでを体系的に扱い、**自社でAI人材を育てていく方法を学び、実践する** プログラムです。まずAIリテラシーを習得して **AI導入に必要な環境（人員・体制を含む）を理解** し、役割と目的に応じて選択講座を組み合わせ受講いただきます。

受講者層	主な対象	向いている関心領域
経営層・管理職層	経営者、管理者、企画職	AI導入の意思決定、ガバナンス、業務適用設計
エンジニア層	エンジニア、データ分析担当、社内推進担当	技術基礎、業務システムへの実装、AI推進

提供する **動画教材（+PDF）は、対面講座を補い、受講後に自社で学び続けるための教材** です。本プログラムでは、対面講座で「**教材を使って自学していく進め方**」を体得し、受講後はその手法で **貴社内に継続的に学び続けられる状態** をつくっていきます。

2. プログラムの目的

本プログラムが最終的に目指すのは、**AI導入に必要な環境（人員・体制）を理解し、自社でAI人材を育てていく方法を身につけ、実践し続けられるようになること** です。

そのために、受講者には以下の状態を目指していただきます。

- AIの正体、できること／できないことを技術用語なしで理解する
- **AI導入にあたって自社で整えるべき環境（必要な人員・体制）を描ける**
- 自社業務に当てはめる視点を持つ
- 経営判断・業務適用・ガバナンスの基本軸を持つ
- リテラシーから一歩進んだ専門知識を獲得する（選択講座）
- **教材を活用して自ら学び進める手法を身につけ、継続できる**
- **学んだ内容と学習方法を社内に展開し、自社の人材育成を回す主役になる**

3. プログラムの流れ

ステップ	内容	所要時間／期間
Step 1（1回目・対面）	必須講座「AIリテラシー習得編」を受講 → その後に面談を実施し、学びの方向性・目標を確認、目的に応じた選択講座を1つ選定	合計 4H
Step 2（自習）	選定した選択講座を、動画教材で自習	約 2週間
Step 3（2回目・対面）	自習した教材内容に関する講座 → 継続学習で使える学習教材・学習方法を説明（1回目面談で伺った目標を考慮して提示）	合計 4H
Step 4	今後の取り組み等に関する報告書のご提出	Step 3 後

各ステップの補足

- **Step 1**：まず必須講座「AIリテラシー習得編」を受講いただき、AI導入にあたって整えるべき環境（人員・体制を含む）への理解を深めます。そのうえで **面談を実施** し、学びの方向性・目標を伺って、目的に応じた **選択講座を1つ選定** します（必要に応じて環境構築サポートも実施）。
- **Step 2**：選定した選択講座について、**動画教材** を用いた自習を進めていただきます（約2週間）。
- **Step 3**：自習いただいた教材内容に関する対面講座を行います。あわせて、受講後も自社で学び続けるための **継続学習の進め方**（利用できる学習教材・学習方法）を説明します。提示する教材等は、**1回目の面談で伺った目標を考慮** して選びます。
- **Step 4**：2回目（対面）の講座後に、**継続した取り組みにつなげるための報告書** をご提出いただきます（フォーマット自由）。

受講後の継続学習について（任意）

本プログラムの狙いは、受講後に **ご自身で学び続けられる状態をつくる** ことにあります。継続学習は **任意（自由選択）** であり、講座メニューとして必須化しているものではありません。希望される場合は、弊社が用意した自学用の **動画教材を受講後 最大4ヶ月間ご利用いただけます**（他の教材を用いた学習でも問題ありません）。

4. 必須講座：AIリテラシー習得編 — AI時代の経営入門

すべての受講者にご受講いただく必須講座です。経営層・エンジニアを問わず、AI時代の共通言語を獲得します。

ゴール

「『AIなんてまだ使い物にならない』そう思っていた数年が、知らない間に終わっていた。気づけば、AIが部下になり、同僚になり、相棒になる時代に突入している。経営者・管理者として、何が起きたのか、これから何が起きるのか、自社・自分は何を準備すべきかを、**技術用語なしで約2時間** で押さえる」

構成（全17回・動画約78分・PDF約60ページ）

章	レッスン
第1幕：現在地を知る	Lesson 01～04（進化スピード／AIとは／エージェント／マルチAI）
第2幕：人とAIの新しい働き方	Lesson 05～07（協働フロー／任せる範囲／指示力・評価力）
第3幕:組織として準備すべきこと	Lesson 08～12（ガバナンス／権限設計／ハルシネーション／コスト構造／法的リスク）
第4幕：自分のために整える	Lesson 13～14（秘書AI／自分クローン・事業承継への応用）
第5幕：今日から始める	Lesson 15～16（90日アクションプラン／次のステップ）

- ・ 技術用語を避け、比喻を多用したトーン
- ・ 経営層・エンジニア共通で受講

5. 選択講座：AI人材育成講座（全16フェーズ）から1講座を選定

面談 で目標を伺った上で、AI人材育成講座の全16フェーズから **選択講座を1つ** 選定いただきます（必須の「AIリテラシー習得編」を含め合計2講座）。選定した講座は **Step 2 で動画教材により自習** し、**Step 3 の対面講座** で扱います。受講後は、関連するフェーズへ自由に広げて継続学習いただけます。

Phase	テーマ	主な対象層
0	環境構築とツール	エンジニア
1	数学の基礎	エンジニア
2	機械学習の基礎	エンジニア
3	ディープラーニング・コア	エンジニア
4	コンピュータビジョン	エンジニア
5	自然言語処理	エンジニア
6	音声・音響	エンジニア
7	Transformer（現代AIのコア技術）	両層
8	生成AI（拡散モデル・画像生成・動画生成）	両層
9	強化学習	エンジニア
10	LLM（大規模言語モデルの本質）	両層
11	LLMエンジニアリング（プロンプト・RAG・運用）	両層
12	マルチモーダル	エンジニア
13	ツール統合とMCP	エンジニア
14	エージェントエンジニアリング	両層
15	自律システム	両層
16	マルチエージェント	両層

6. 確認テスト・報告書

確認テスト

各教材（動画／PDF）の章末に理解度チェック問題を用意。受講者が「分かったつもり」で進むのを防ぎます。自己採点形式で、学習中に随時お取り組みいただきます。

報告書

Step 3 の対面講座後にご提出いただきます。**フォーマットは自由**です。継続した取り組みにつなげていただけるよう、以下の3点を意識した内容としてください。

- 自社業務に当てはめた具体案
- 残った疑問・追加で学びたい領域

- ・ 社内に展開するアクション（自社の人材育成への応用）
-

7. 学習形態と注意点

- ・ **学習形態**：対面講座×2回（Step 1・Step 3）＋ 動画教材による自習・受講後の継続学習
- ・ **対面講座時間**：合計 8H（Step 1 で 4H、Step 3 で 4H）
- ・ **自習期間**：約 2週間
- ・ **継続学習期間**：最大 4ヶ月（プログラム終了後の自由学習）
- ・ **想定総学習時間**：必須講座 約2時間／選択講座 各5～10時間
- ・ **配布形態**：動画は YouTube リンク／PDF は A4 縦／オンライン配布
- ・ **動画教材（+PDF）の位置づけ**：対面講座を補い、受講後に自社で学び続けるための教材
- ・ **個別質問対応**：面談および対面講座の中で対応

注意点

- ・ 本プログラムは、受講者がその場で業務適用できるAIシステムを完成させることをゴールにはしていません。**貴社内で学び続けられる体制の構築**が最終目的です。
 - ・ 動画教材を用いた学習は、受講者本人のペースで進めていただきます。学習支援が追加で必要な場合は、別途ご相談ください。
-

8. お問い合わせ

有限会社 網業商会

- ・ 電話：078-651-1080
- ・ メール：contact@kogyoshokai.com
- ・ ホームページ：<https://kogyoshokai.com>

最新情報・お問い合わせフォーム・サービス案内は、ホームページからご覧いただけます。